

令和2年度～令和4年度

# ふるさととキャリア教育 モデル事業の取組

八頭町教育委員会 北栄町教育委員会 日野町教育委員会

全県で一体となって「ふるさととキャリア教育」を推進

教育を通して  
地域のミソクを学ぶ

自らの生き方・あり方  
について考える

ふるさとと教育

+

キャリア教育

ふるさととキャリア教育

CSの仕組みを活用したふるさととキャリア教育

- ・学校運営協議会で協議された目指す子ども像や目標・ビジョンを共有

コミュニティ・スクール  
(学校運営協議会を設置した学校)

地域学校協働本部  
(地域のつながり・ネットワーク)

地域学校協働活動  
(地域と学校が目標を共有した活動)

「人」「物」「仕事」を系統的につなぐ

- ・既存の教科・内容を地域独自の教材へ
- ・ふるさとの環境や安全などの価値について学ぶ
- ・郷土の歴史や先人について学ぶ
- ・その道のプロに学ぶ など

ふるさととキャリア教育モデル事業（令和2年度～4年度）

- ・鳥取県東・中・西部地区の中学校区で、ふるさととキャリア教育を推進するモデル地区を指定

	小学校	中学校	高等学校
東部 八頭地区	郡家東小、郡家西小 船岡小、八東小	八頭中	八頭高
中部 北栄地区	大栄小、北条小	大栄中 北条中	鳥取中央 育英高
西部 日野地区	根雨小、黒坂小	日野中	日野高

令和5年度からは日野学園

# 八頭町教育委員会の取組



目標及び成果指標

## 目的

八頭町内の小中高で連携し、キャリア・パスポートを活用して効果的に学年間や学校間をつなぎ、ふるさとキャリア教育を充実させることで、子どもたちが自分らしい生き方を実現し、自己実現に向けて主体的に課題解決に向かう意欲や態度を育てていきたい。そして鳥取県に誇りと愛着を持ち、将来にわたってふるさとである鳥取県や八頭町に思いをはせながら自己実現を目指せるような子どもを育てる。

- ふるさとキャリア教育に係る教員・児童生徒のアンケートを実施し、年度当初と年度末の比較により肯定的意見が各項目で向上する。
- キャリア・パスポートを活用した取組状況を情報交換し、学校間の連携方法等を検討しながら各学校で計画的に実施する。



## 取組の様子（一例）

町出身の先人の生き方を知り、自分の行動や今後の学校や地域の貢献について考える。



小中学校 道徳科  
「町の出身者を題材にした学習」



総合単元的に取扱う  
4年教材「この村に水を  
～安藤伊右衛門～」



八頭高校の  
ふるさとキャリア教育  
「翠陵探究」



ふるさとについて学んだことを  
発表したり聞き合ったりする  
町内小中高交流学習



八頭町キャリア教育  
担当者連絡協議会  
(年3回開催)



## 成果と課題

### ○教員・児童生徒のアンケート

「八頭町の道徳」を活用した取組、各学校の特色を生かした取組、地域の小中高の連携による交流学習など、地域を生かした学習を模索してきた中で、児童生徒も教職員も学校に関わる地域の方々も、地域への気付きが促され、地域を思う心はより強くなり、確実にそれぞれの学びが積み重ねられている。

### ○3年間の取組を今後どのように継続していくのが課題。負担なく無理なく持続可能な取組にしていくことで子どもたちに力を付けていきたい。

【小中学校 児童・生徒アンケート】	R4年度							
	7月【小中全体】				12月【小中全体】			
	1…はい	2…どちらかといえばはい	3…どちらかといえばいい	4…いいえ	回答総数	1093	回答総数	998
質問項目 ★中学生のみ	1	2	3	4	回答総数	1093	回答総数	998
★⑥課題解決に向けて解決方法を考え行動する	40%	45%	14%	2%	35%	46%	16%	3%
⑦学校や家の近くで働いている人を知っている	70%	12%	6%	12%	73%	12%	7%	9%
⑧働く人や将来の憧れ、理想像がある	59%	25%	10%	6%	62%	23%	10%	6%
⑨家族、自分の将来の仕事についてわかる	42%	32%	21%	6%	45%	31%	16%	8%
⑩学校や家での勉強が将来に役に立つ	64%	31%	4%	1%	63%	32%	4%	1%
⑪ふるさと（八頭町・鳥取県）が好き	75%	20%	2%	2%	75%	20%	3%	2%
⑫地域の行事に参加	48%	29%	13%	9%	44%	30%	13%	13%
⑬地域の良さや、それに关わる人の思いや生き方を知っている	41%	38%	14%	7%	44%	39%	12%	5%
⑭自分の良さ、学級の良さに気づき、ふるさと の良さを伝え広げる思考や行動化	37%	35%	20%	8%	36%	38%	18%	8%
★⑮将来は今住んでいる地域や鳥取県を様々な 場面で支え、関わりたい	30%	49%	13%	7%	31%	46%	18%	5%

### ○横のつながり

小中高12年の計画に基づき、各学校の特色を生かしつつ町内共通の取組を行い、八頭町のよさ、人のあたたかさや素晴らしさについて、効果的に学べることができた。

町の共通教材については、町内担当者が年度当初にねらいやめあてについての共通理解を必ず行い、八頭町共通認識のもとで大切に扱いたい。「八頭町の道徳」や学活「学びのパワーアップ」に取り組む際は、学校間で連絡を取り合い合同学習として学ぶことも検討していきたい。

### ○縦のつながり

キャリア・パスポートについては、3年間どう活用していくのか話し合ってきたことにより、各学校での活用は十分に行われてきている。校種が小→中、中→高へ進学する際に引き継いだキャリア・パスポートを活用することについては今後も検討していく。

中学校では小学校の学びに重なりがないようにし、高校では鳥取大学や町内企業との連携で探究的な学びを始め、ふるさとの未来に向けて貢献できることを考え、社会における自らの生き方を模索する学習を行うことにした。お世話になった地域のゲストティーチャーや企業・事業所などとの関わりやつながりを町内共通の財産として学校間で共有すると、よりよい学びが積み上がると考える。

今年度新たに取組んだ小中高の交流学習は、小中学生にとっても、高校生にとっても、非常に効果的な「地域での『思考と行動化』の場」となった。交流前や交流中の子どもたちの姿や交流後の感想からも、児童生徒にとって非常に多くの学びがあったことが伝わってくる取組だったことから、来年度以降も継続していきたい。来年度の実施時期については、今年度中に6～9月の中で決めておき、計画的により充実したふるさとキャリア教育となるようにしたい。早めに高校生のプレゼンの内容を小中学生と共有し、より主体的に学びに向かう気持ちを高め思考しておくことで、より効果的な学習機会となると考えられる。また、中学生と小学生の交流学習についても、子どもたちの思いから「ようこそ先輩」の取組を行った。ICTの活用も視野に入れつつ、持続可能な形を検討していく。

3年間の取組は、私たちにとっても様々な研修の機会となった。今後も、児童生徒が発達段階に応じて、系統的に地域の様々な人と関わり、地域のよさを知り、様々な経験を重ねていくことができるように、町全体で協力・連携していきたい。



## 3年間の総括

# 北栄町教育委員会の取組

## 目的

ふるさとキャリア教育を推進するモデル地区として北栄町教育委員会と各学校が協働し、鳥取県立鳥取中央育英高等学校と連携を図りながら、コミュニティ・スクール、キャリア・パスポート、地域副読本の効果的な活用を通して、子どもたちが北栄町を身近に感じ、将来の北栄町の担い手としての意識を高めていく。

## 目標及び成果指標

- ふるさとキャリア教育の校区別年間指導計画の作成
- 児童生徒及び教職員を対象としたアンケートの肯定的回答80%以上
- 各小学校の授業における地域副読本の活用100%

## 取組の様子(一例)



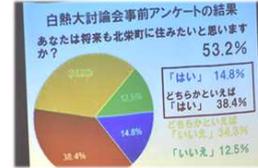
北栄町防災の取組  
(北条中1年生・総合)



地域の多目的広場に  
植樹をしよう  
(北条小6年生・総合)  
園児・地域の人と植樹



(中央育英高・地域探究)  
(1年生) 地域探究入門  
【フィールドワーク】  
(2年生) 地域探究  
【調査・研究・フィールドワーク】  
全校の前でグループ発表



大討論会の動画

大栄小・中学校  
「白熱大討論会」  
児童生徒・地域代表  
教員代表で討論



YouTu部 (大栄中)  
特色ある学校づくりの一環として  
地域の魅力を生徒が動画配信

大栄の自慢を見つけよう  
スイカ選果場・園芸試験場訪問  
(大栄小3年生・総合)

## 成果と課題

- ふるさとキャリア教育の校区別年間指導計画
  - ・12年間の子どもの学びを縦軸でとらえ、各校区、学校ごとに学びが点から線へとつながっている。
- 児童生徒及び教職員を対象としたアンケート
  - ・鳥取県や北栄町が好きだと答えた児童生徒の割合は常に高く、中学生の意識が今年度はどの項目においても高い。中学校教職員のふるさとキャリア教育への取組状況とも比例しており学校での学習の結果として表れている。
- 各小学校授業での地域副読本の活用
  - ・両小学校とも、3年生以上のすべての学級で副読本が活用され、社会科、総合的な学習の時間を中心とした授業での活用や授業以外の場面でも興味を持って読んでいた。
- ふるさとキャリア教育やコミュニティ・スクールの取組がまだ、一部の教員、担当者だけで進められているのではないか。
- 保こ・小・中・高の各校種間の交流や連携については、交流活動だけでなく子どもの育ちや課題の共有化をさらに進めたほうが良い。

学年	学期	2学期		
		9月	10月	11月
小学校	1年	あそびいっぱい(生活)		
	2年	花火にこめられたねが(道徳)	乗り物でゴー(生活)	
	3年	大栄の自慢を見つけよう(総合)		
	4年	ふれあい体験しよう(総合)		
中学校	1年	北栄町めぐり(総合)		
	2年	地域探究「山田の里」(総合)	地域の食材で調理実習(家庭科)	中学生、町づくり(総合)
	3年	修学旅行(県内)		北栄町プレゼン(総合)
高等学校	1年	夢と「社会人」に学ぶ(総合)	県内大学訪問	地域探究(総合)
	2年	小論文・実証実験(総合)	大学等実習(総合)	地域探究(総合)
	3年	進路探究(進路別学習)		進路探究(奨励金を振り返)

## 3年間の総括

令和2年度より、キャリア・パスポートが各校に導入され、「キャリア教育」から「ふるさとキャリア教育」へと深化し、さらにコミュニティ・スクールもスタートした。学校においては新しい取組は負担を感じやすい。これまでの取組を生かし、整理しまとめ、発展させていくことならば無理なくやっていけるのではないかと。また、同時期に始まったコミュニティ・スクール(CS)も大きな力となると考え、これまでの取組を生かした北栄町のふるさとキャリア教育を確立していくこととした。

北栄町では学校運営協議会の設置以前より、地域の方による通学路の見守り、小中学校での学習支援、読み聞かせ活動等が行われていたが、CSがスタートし、これまでの活動がより深化してきている。例えばあいさつ運動に中学生が加わることで小学生に良き手本を示すことになり、地域の方から子どもたちのあいさつについての声を学校に伝えていただくことで、子どもたちの意識も向上し、よりよい姿が多く見られるようになった。教員はこれまでの学習をふるさとキャリア教育の視点で見直し、地域の人材や素材を一層取り入れるようになった。そして学校や教員だけで考え行う学びより、地域に学び、地域を学び、地域と協働して学ぶことが地域を理解し、北栄町に愛着をもつ子どもの育成につながってきている。地域からも「学校や子どもたちとのかかわりが増えて子どもたちのいろいろな面を知ることができた。」「地域で出会った時に子どもたちのほうから声をかけてくれて嬉しい。」といった声も聞かれる。

また、ともにモデル事業を推進する鳥取中央育英高校では、今年で8年目となる「地域探究」の学習に取り組まれている。地域のリーダーとなる人材の育成や、これまで知らなかったふるさとの魅力や課題を探究し、地域のために自分にできることに気づき、地域貢献の志を抱く生徒の育成が目的である。

この学習を行うことによって、3年生は「地域探究の時間」での学びを活かし、進学・就職を決める生徒が多く、2年生は事後にとられた生徒アンケートから自己肯定感が高まった生徒が多くなったこともわかった。そして1年生では次年度で行うことの見通しを持たせることができた。

北栄町のふるさとキャリア教育をさらに充実・発展する取組を進めていきたい。

# 日野町教育委員会の取組



目標及び成果指標

## 目的

日野町内の児童生徒が、自らのキャリア意識を確立させ、自分らしい生き方を実現していくために、ひのっこ保育所、鳥取県立日野高等学校、地域学校協働本部とも連携し、ふるさとキャリア教育を充実させる。

- まち（日野町）のよいところ（よさ）を知っている児童生徒の割合（全学年） 85%以上
- まち（日野町）のために、何か役に立ちたいと考える児童生徒の割合（全学年） 80%以上
- まち（日野町）で起こっている出来事や問題に関心がある児童生徒の割合（全学年） 80%以上



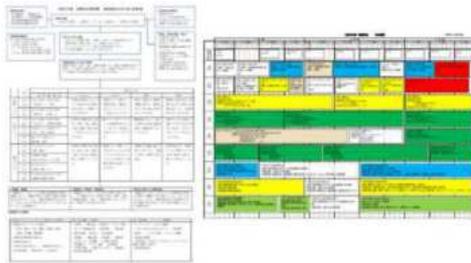
## 取組の様子（一例）



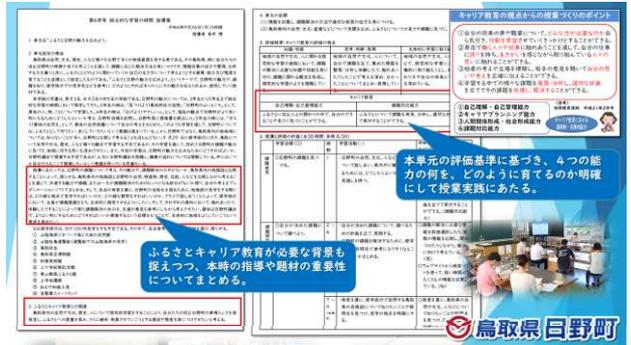
日野町の食を盛り上げよう  
(根雨小5年生・総合)  
動画作成を通して



ふるさと日野の魅力を  
広めよう  
(黒坂小6年生・総合)  
魅力の伝え方を県内修学  
旅行の見学先などを参考に、  
町の魅力の伝え方を  
探究して町議会で提案



ふるさとキャリア教育カリキュラムの作成



根雨小・黒坂小 ふるさとキャリア教育を  
校内研修の柱に据えた実践  
(合同研修会・合同授業研究会)



## 成果と課題

今年度は、小学校2校でふるさとキャリア教育を校内研修の柱に据えた実践が行われたこともあり、合同研修会や合同授業研究会など、様々な取組を行った。実践の中で、地域に関する題材や、地域の方々をゲストティーチャーにする活動など、地域に密着した実践に数多く取り組むことができた。教員アンケートの結果からも「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような工夫をした指導」を行っている教員の割合が高く（80.8%）子どもたちに課題意識を持たせる指導の展開が深まっている。

「まちのよい所を知っている」（83.8%）、「日野町のことが好き」（92.3%）な児童生徒の割合は、昨年度末の値を上回り、自分たちのまちを愛する児童生徒のさらなる育成が伺えるが、「まちのために役立ちたい」と考える児童生徒の割合はやや低い傾向にある。同じく、「まちで起こっている出来事や問題に関心がある」児童生徒の割合も低い傾向にある（54.5%）。児童生徒に課題意識を持たせる工夫が、実際に子どもたちの意識の中に浸透していくようなしなげも必要と考える。

キャリア・パスポートの活用については、教職員アンケートの結果より、その活用に対して肯定的回答（活用を行っている・どちらかといえば行っている）の割合は76%と、昨年値に比べると15ポイント以上上がったものの、まだ十分とは言えない。今年度の研修においてもキャリア・パスポートを取り上げた研修は行うことができなかったため、その活用についても深めていくことは今後の課題といえる。



## 3年間の総括

最終年度となる令和4年度は、両小学校が校内研究の中核に「ふるさとキャリア教育」を据えて取組を推進したこともあり、県の協力も仰ぎながら実践研究、理論研とより一層深めることができた。両校の研究会には、中学校も随時参加し、ふるさとキャリア教育の系統的な取組の推進にもつながった。地域学校協働本部と連携した活動の深まりも伺え、これまで以上に地域の人材を活用した多くの取組を実践することができた。また、授業や活動のねらいを共有することで、児童生徒の課題意識や目的意識を高揚させるような授業づくりを進めることができたように考える。ただ、数値としては上述のように課題もある。今後も継続的に取組を推進することでめざす児童生徒の育成にも結び付くものと考えている。

令和5年度、日野学園の開校に伴い、町内は1校に統合される。そのような中で、いかにこれまでの地域との関わりや活動を維持継続、さらには深化していくか、大きな転換期を迎えると考えられる。これまで積み上げてきたものを再度検証しながら、日野町の掲げる「ふるさとを愛し、心豊かにたくましくはばたく日野の子の育成」を目指したい。

## コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

